

(様式1)

「絆の作り手育成プログラム研究指定校」実績報告書（1年次）

1 学校名等

学 校 名	木津川市立 加茂小学校							校長名	久保 嘉章	
所 在 地	〒619-1152 京都府木津川市加茂町里西上田11番地1 電話 (0774)76-2101 FAX (0774)76-8002									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	2	2	1	2	2	2	2	13	20	
児童生徒数	39	46	30	50	39	44	8	256		
連 携 先 (文化財所有者等)	浄瑠璃寺・岩船寺・当尾の石仏・恭仁宮跡・海住山寺・大 仏鉄道・残念石等 山城郷土資料館							※校長・教頭を含む		

令和3年5月1日現在

学 校 名	木津川市立 恭仁小学校							校長名	市橋 純子	
所 在 地	〒619-1106 京都府木津川市加茂町例幣中切31・32 電話 (0774)76-2103 FAX (0774)76-8230									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	1	1	1	1	1	1	1	7	10	
児童生徒数	9	8	5	10	7	8	1	48		
連 携 先 (文化財所有者等)	浄瑠璃寺・岩船寺・当尾の石仏・恭仁宮跡・海住山寺・大 仏鉄道・残念石等 山城郷土資料館							※校長・教頭を含む		

令和3年5月1日現在

学 校 名	木津川市立 南加茂台小学校							校長名	太田 智之	
所 在 地	〒619-1127 京都府木津川市南加茂台12丁目11番地 電話 (0774)76-3400 FAX (0774)76-8232									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	1	1	1	1	1	1	3	9	16	
児童生徒数	19	17	26	25	29	16	7	139		
連 携 先 (文化財所有者等)	浄瑠璃寺・岩船寺・当尾の石仏・恭仁宮跡・海住山寺・大 仏鉄道・残念石等 山城郷土資料館							※校長・教頭を含む		

令和3年5月1日現在

2 研究校の概要

【児童の実態】

〈強み〉

- ・明るく素直で、何事にも言われたことはやろうと真面目に取り組む。
- ・中学校ブロックで取り組んでいる「みそあじ運動」が意識化され生活規律が定着しつつある。
- ・地域や地域の人々との交流が盛んでつながりが深い。

〈弱み〉

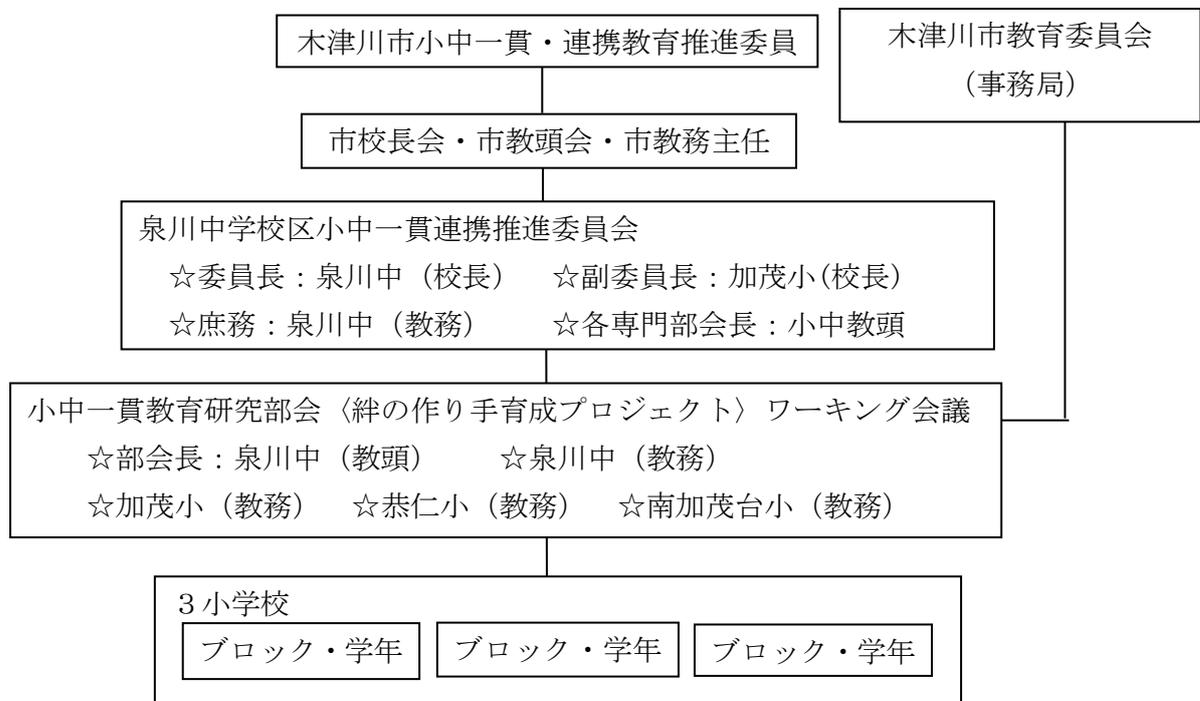
- ・人間関係が固定化しがちで、自己表現やコミュニケーションが苦手な傾向が見られる。
- ・経験が乏しく時と場に応じた対応力や、自分の意見や思いを伝える力に弱さが見られる。
- ・自ら工夫したり協働したりしながら学び合う経験や、自ら進んで学ぼうとする意欲が乏しい。

【学力状況】

R3 結果より

- ・全国学テ（6年）や府学テ（4年）では、国算ともに全国や府平均程度である。
- ・市学テ（1～5年）では、国算ともに全国平均程度である。
- ・全体的に基礎基本の定着は見られるが、活用力における格差が大きい。
- ・質問紙の学習に関しては「主体的に学び考える力」の「計画的に学習する」ことや「国語・算数の勉強は好きだ」等に課題が見られる。
- ・質問紙の非認知領域では、「新たに価値を生み出す力」の「失敗を恐れなくて挑戦している」や「最後までやりきって、嬉しかったことがある」等に課題が見られる。

【研究体制等】



3 主な研究活動

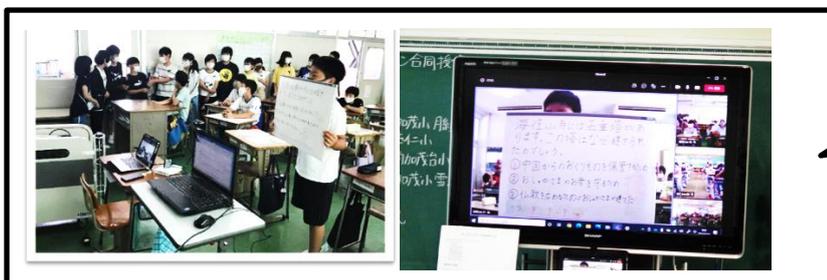
【研究主題】「郷土・人・地域社会とつながり、主体的に未来を生き抜く児童の育成」

学習課題	地域の良さを知り、その良さを生かすにはどうしたらよいだろう		
学校規模	加茂小 (全校 256 名) 6年：44名	恭仁小 (全校 48 名) 6年：8名	南加茂台小 (全校 142 名) 6年：17名
学習課題	ふるさと再発見！	みかのはらの歴史再発見！	当尾歴史 PR 大作戦！
文化財	浄瑠璃寺・岩船寺・大仏鉄道・恭仁京	海住山寺・恭仁京跡	浄瑠璃寺・岩船寺・当尾の石仏
外部人材	・NPOふるさと案内 ・木津川市情報発信基地 キチキチ ・山城郷土資料館	・海住山寺住職 ・まちづくり協議会 ・山城郷土資料館	・NPO ふるさと案内 ・浄瑠璃寺/岩船寺住職 ・当尾文化祭実行委員 ・山城郷土資料館

【各校の取組】

	加茂小 『ふるさと再発見！』	恭仁小 『みかのはらの歴史再発見！』	南加茂台小 『当尾歴史PR大作戦！』
取組目標	地域の歴史や文化を調べ、その魅力を地域の方や他地域の方に発信することを通して、郷土のよさを再認識するとともに、将来にわたって地域を愛する気持ちを育成する。	地域の歴史や史跡、地域の人々の思いを知って地域の良さや課題を再認識するとともに、課題を主体的・協働的に解決しようとする態度や郷土を大切にする気持ちを育成する。	地域の歴史を調べ、他へ発信していく活動を通して、地域の良さ、特長などを再認識するとともに、地域の文化財を大切にする気持ちを育成する。
P R	ちらし制作・加茂地域へ発信	・季節毎イベント考案（恭仁京） ・知名度向上の方策（海住山寺） ・文化財や改善策を校内へ発信	・ポスター制作・地域へ発信 ・文化財の魅力を校内へ発信
進め方	外部人材から文化財について広く知ってもらいたいという願いだけでなく、地域の人々が文化財を大切に守り、継承して欲しいという思いを聞き、文化財をアピールする取組とともに自分たちには何ができるかを考え、発信する。	文化財のフィールドワークや外部人材へのインタビューを通して、地域の課題に対する解決方法を話し合い提案する。また、地域社会の一員として、地域の文化財との関わりを見つめ直し、今後自分たちにできることを考える。	文化財フィールドワークや校内事前アンケートを通じて、地域の課題・解決方法の検討を行い、発信する。また校区内の歴史や、地域との関わりを改めて見つめ直し、地域との関わりの中で自分にできることを見付ける。
様子			

【各校の交流】オンライン交流（年3回）



第1回、2回は、各学校の取組の交流（進め方や進捗状況）を行った。



第3回は、各小学校が学習のまとめを交流した。また、校区の中学校の1・2年生もオンラインで参加するなど、成果・課題を中学校区で共有し合った。

4 今年度の研究の成果と検証

【児童】

- ・文化財のフィールドワークや外部人材へのインタビュー等を通して、地域や地域の人々と交流し、郷土の良さや課題に気付き継承についての意識を高めることができた。
- ・自ら課題を設定し、その解決に向け情報の収集や整理・分析したり、まとめ表現したりする課題解決型学習を通して思考力や判断力が養われた。
- ・3小学校の交流や校区の中学校の参画によって、多様な人と交流したり協働したりする中で、小中の連携につながる新たな価値を創造し個性を伸長することができた。
- ・調査や発信、成果物の作成等、目的に応じた ICT 機器の効果的な活用や相手を意識した情報活用能力の向上が見られた。

【学校・教職員】

- ・「絆の作り手プロジェクト」ワーキング会議（年間6回）を開催し、総合的な学習の時間（地域学習「ふるさと絆学」）を軸とした小中連携や小中一貫カリキュラムの編成・整理に着手することができた。
- ・地域の文化財や小中一貫教育等について研修し、知識や視野を広げることができた。

【家庭・地域社会】

- ・文化財を主として地域とつながり、それをアピールする取組（ちらし、ポスターの作成、改善策の考案等）や課題に対する解決策の発信等を通して、地域との関わりを深めることができた。

5 今年度の課題

- ・地域の歴史や文化財について学ぶ地域学習「ふるさと絆学」の体験学習や学習活動（学習過程）等、系統的なカリキュラムのさらなる整理・編成が必要である。
→「絆の作り手プロジェクト」ワーキング会議を中心に進めていく。
- ・文化財の所有者や継承・保存に尽力されている団体等が抱える課題を把握し、ターゲットを焦点化した実現可能な解決策を考え実行していく力を向上する。
→ICT 機器や情報活用能力の向上を図り、個別最適な学びや協働的な学びを充実し、整理・分析、まとめ・表現する力等、課題解決型学習を通して認知能力や非認知能力を一体的に育成する。
- ・コロナ禍の下、3小学校の交流がオンライン活用での実施となった。
→実際に顔を合わせた交流の機会やオンラインの有効活用等、発表や交流する場を設定し学びを広げ普及促進していく。
- ・学校代表による視察研修は実施できたが、総合的な学習の時間や文化財等について全教職員で研修する機会が設定できなかった。
→3小学校合同研修会など、府機関との連携を図りながら教職員の学ぶ機会を設ける。
- ・地域の歴史や史跡について追究する際、山城郷土資料館の利用について年度当初に計画していたが、新型コロナウイルス感染予防の観点やその他の活動との兼ね合いから、利用することができなかった。
→令和4年度においては山城郷土資料館と連携し、児童の訪問だけでなく単元構想の相談や史跡についての質問等の際に利用する。

6 事業終了後の研究構想

- ・ワーキング会議を中心に小中連携、小中連携も視野に入れたカリキュラムの編成・整理の継続。
- ・今年度の学習の成果と課題を踏まえ、それを生かした学習の継承と積み上げ。
- ・課題解決型学習を活用した地域学習「ふるさと絆学」や ICT 活用等についての研修。